

竜ヶ崎二高だより No.8

令和元年 12 月 23 日発行

パラレル東京

校長 宮本 順紀

12月2日から4夜にわたってNHKで放送された「パラレル東京」をご覧になりましたでしょうか。「体感 首都直下地震」というシリーズの一部となっていたものです。架空の放送局が舞台で、マグニチュード7.3の直下型地震に襲われた東京の姿を描いたドラマです。ドラマというよりシミュレーションに近い番組でした。4夜にわたって視聴しましたが、どの回も不安と恐怖を抱かずにはいられませんでした。首都直下地震は発生が予想されているものの、実際に東京直下で発生したらどうなるのか自分が想像していたものを超えるものとなる可能性があることがこの番組を見て理解できました。1923年に起こった関東大震災では、家屋が木造中心であったこともあり、火災でたくさんの方が亡くなりました。今回の番組でも火災の恐ろしさは描かれていましたが、それ以上に恐ろしいと思ったのが、群衆が雪崩のように積み重なってしまい多数の死者が出てしまうことや、デマに惑わされて群衆がパニック状態になり死者がでてしまうこと、そして、川の堤防が崩れて大規模な洪水が発生してしまうことなどです。これまで経験したことのない大惨事が、東京を直下型地震が襲うと発生してしまう可能性があり、それに対してまったく備えがないことが描かれていました。さらに、東京が大打撃を受けてしまうと、株価が下落し、日本の国債の信用も失われてしまう可能性があります。そうすると、日本全体が経済的に破綻してしまうことにつながる可能性があります。被害を受けていない地域や人も、生活が全く変わってしまうような経済的打撃を受けることになります。可能性の連鎖として書いていますが、それらも番組で述べられていましたので、もし、もう一度観る機会があれば、その点もじっくりと考えてみたいと思いました。

2011年に起こった東日本大震災の経験は二度としたくないと思っています。当時、ある別の高校に勤務していましたが、ちょうど特別棟4階の図書室で、ある男子生徒と進路について面接をしている時に、地震が発生しました。図書室の書架がづぎづぎと倒れ始め、転ばぬように階段を二人で降りていき、校舎の裏口から出ました。出る瞬間、自分の眼鏡と顔の間をガラス片がすり抜けて落ちました。1秒にも満たないタイミングで大けがになっていたかもしれません。その後、校舎の前に全生徒が集合し、大きく揺れる電線や校舎を見ながら地震の恐ろしさを感じていました。その時、東北地方ではもっと恐ろしい津波の被害が広がっていたことはまったく知りませんでした。1万5千人以上が亡くなりました。その後、新入生を迎え、茨城の学校は何とか動きだしましたが、8年以上を過ぎた今なお、たくさんの行方不明者がいますし、生活が元に戻らない方々もたくさんいます。最悪のレベルで首都直下型地震が起こった場合は、それ以上の被害がそれ以上の期間にわたって続く可能性があることをこの番組は改めて考えさせてくれました。番組が放送されている4夜の間にも関東北部では震度4の地震を含む複数の地震が続きました。東日本大震災や神戸・淡路大震災、そして関東大震災が残した教えを学び、生きるための防災のスキルを身に付けておく必要性をさらに感じました。



人間文化科の2,3年生が絵本作成講習会 およびラオス講演会を行いました



11月25日(月)、人間文化科の2,3年生が「子どもの発達と保育」、「子ども文化」の授業の一環として、タブレット型PCを用いてラオスに贈る絵本の作成を行い、ラオスの現況に関する講演会に参加しました。絵本作成の講師は、株式会社グッド・グリーフの代表取締役朝倉民枝氏、講演会の講師は「茨城・アジア教育基金」を支える会の井川憲一氏が務めました。

本校では、ICTを活用して子どもたちの創造表現活動を支援するグッド・グリーフ社が開発した「ピッケ」という初心者でも作成しやすい絵本づくりのソフトを用いて生徒自らが絵本を作成し、支える会の方により日本語をラオス語に翻訳していただき、ラオスの子どもたちに贈るというプロジェクトを行っています。



たつのこ未来トークに参加しました

11月30日(土)に龍ヶ崎教育の日推進事業の一環として開催された「たつのこ未来トーク」に、松園和之君が本校を代表してパネルディスカッションに臨みました。当日は、中学生3名、愛国学園龍ヶ崎高、竜ヶ崎一高の生徒とともに、パネラーとして10年後の龍ヶ崎を考えました。松園君は、本校が主催する「りゅうがさきフューチャーセンター」の取り組みを基に積極的に意見を述べました。



生徒会選挙が行われました



12月5日(木)、生徒会選挙が行われました。6名の推薦者と候補者が壇上にあがり、推薦者の応援演説に続いて候補者が「目安箱などを設け、学校行事に生徒の意見を反映させる」、「みなさんが充実した学校生活を送れる

よう努力する」など公約を掲げました。投票の結果、会長候補の斎藤美知加さんはじめ6名全員が信任されました。みなさんが竜ヶ崎二高を引っ張っていくことになります。活躍に期待しています。



1学年の「道德」の授業で地元龍ヶ崎の「龍神太鼓」を体験しました



12月2日・9日(月)、4日・11日(水)にかけて、龍ヶ崎の郷土芸能である「龍神太鼓」の体験が行われました。講師から太鼓のバチさばきや演奏の一節を指導していただきました。各クラス2度の機会でしたが、8~9名の1グループで息の合った演奏ができました。竜神太鼓保存会のみなさん、ご指導ありがとうございました。



1学年でグループエンカウンターによる人間関係作りの授業を行いました



12月6日(金)に筑波大学大学院教授の庄司一子先生と大学院生3名に来校いただき、1学年生徒対象のグループエンカウンターによる人間関係作りの授業を行いました。すでに6月に1学年4クラスが一度ずつ、庄司先生のご指導を受けていましたので、今回が2回目にあたります。

今回は、部屋を自由に無言で歩いたり、ほほえみを交わして歩いたり、挨拶して歩く「フリーウォーク」、全員が輪になって拍手をつないでいく「拍手回し」、3人一組で指示に従って組み合わせるメンバーを変える「木とリス」、6人がグループになって究極の選択についてすごろくを行う「スゴロクトーキング」、グループで新聞紙のタワーを作る「新聞タワー」を行いました。

生徒たちからは笑顔がこぼれ、活発な活動となりました。生徒からは「どの活動も楽しかった」、「クラスの人たちの気づけなかったところに気づいた」などの感想が聞かれました。庄司先生からは、「この半年でだいぶ成長した姿を見ることができました。」という言葉がいただきました。12月13日(金)にも2クラスで実施しました。